

「仮の意思決定の吟味」を位置づけた社会科学習(3)

－「イノシシが広島市に出没」の場合－

上之園 強

1 研究の意図

本研究は、「小学校において、児童の意思決定力をどのように育成するか」がテーマである。そのため、本実践では、小学校で育成する意思決定力を焦点化し、その焦点化された意思決定力を育成する学習過程の改善を試みる。基本とする学習過程は、「最初に社会的問題と出会い、そこから解決策を考えるために自ら探究し、意思決定する¹⁾」過程である。なお、本実践は一昨年度に続く継続的な試みであり、基本的な考え方は、平成10年度研究紀要を参照されたい。

2 意思決定力を育成する基本的な考え方

(1) 育成する意思決定力の焦点化

社会科において、確かな意思決定を行っていくためには、問題状況や背景を正確に把握していることが前提²⁾となる。そこで、小学校では育成する意思決定力の中核を意思決定に必要な事実認識とし、その事実認識力の育成に焦点をあてた試みを行う。

工夫1 小学校では、意思決定のための事実認識力に焦点をあてた育成を行う。

(2) 主体的で深い意思決定に向かう学習過程

基本とする学習過程を図示すると以下ようになる。本実践では、意思決定のための事実認識力の育成に焦点をあてていくために、学習導入部①の問題把握の後に「現段階で、解決するためにどうしたらよいか」という問いかけを行い、児童が「仮に意思決定する場」を設定する。そして「仮の意思決定を児童が相互に吟味」していくようにする。児童は、この吟味の過程を通して、より確かな決定を求めようと意欲的になったり、意思決定に必要な「事実関係を認識する視点」を見いだしていくのではないかと考えている。

工夫2 事実認識に基づいた確かな意思決定をめざして、学習展開の導入部に「仮の意志決定とその吟味を行う場」を位置づける。

過程	めあて設定	個人での自力追究	集団を通じた追究	達成・発展
意思決定過程	①問題把握→②問題分析→③解決策の提出→④解決策の予測→⑤解決策の決定			意思決定
	仮の意思決定の吟味			
子どもの活動	自分の現時点での考えを仮の決定として持ち吟味する	問題の背景や様々な立場や考え方を調べる	調べたことをもとに自分なりの案を考える	自分なりの案を選んだとしたら、どうなるか考える
				自分や他者の考えを参考にしさらに、決定を修正・深化する

(注) 1) この学習過程の考え方は、小原友行「社会科における意思決定」社会認識学会編『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994、に基づいている。概念探究の後で意思決定する考え方は概念探究・価値分析型社会科、岩田一彦『社会科の授業分析』東京書籍、1991、p58. がある。

2) 意思決定力の捉え方については、小原友行「社会科における意思決定」社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994、PP168-17. や社会科教育指導用語辞典（論争問題に対する合理的意思決定能力）教育出版、1986. に基づいている。

3 意思決定力を育成する授業の実際 第5学年単元「イノシシが広島市に出没」の場合 単元目標

- (1) 自然環境（野生動物や森林資源）と人間との共生について、自分なりの解決策を考えることができるようにする。
- (2) 西中国山地や広島市街地でのイノシシ出没問題の現状や背景を理解することができるようにする。
- (3) 地図や統計などの基礎的資料を効果的に活用し、表現することができるようにする。

単元展開計画…………… 8時間

第一次 広島市のイノシシ出没問題について知り、解決策を考えていくための見通しをもつ。……………(3)

- ① 広島市住宅地でイノシシによる被害が起きて問題になっていることを知る。
・ 出没地域、出没の推移 ・ 被害の様子や件数
- ② イノシシの被害をなくす「仮の解決策」を考え、その「吟味を通して解決策を深めていく視点」を持つ。
・ 解決策を深めるうえでの不明な点 ・ 解決策を考えていく手順

第二次 解決策を深めていくために、イノシシ出没問題の背景や被害対策を調べる。……………(3)

- ① 自分なりに探究する。
- ② 個人で探究したことを学級集団で検討する。
・ 出没地域や町の変化 ・ 広島市近郊の山林の変化 ・ イノシシの生態
・ 被害にあった人々の思いや考え ・ 現在考えられている対策案

第三次 解決策を深め、自分なりの解決策を決定する。……………(2)

- ① 自分なりの解決策を複数考え、一つにしぼる。
・ 複数の解決策を選択した場合の予測、長所、短所の検討
- ② 解決策を学級集団に出し合い考え方を深め、最終的に決定する。
・ 共生の視点からの自分自身の決定

実践の概要（紙幅の都合上、第一次「仮の意思決定の吟味」までとする）

(1) 広島市の住宅地でイノシシによる被害が起きていることを具体的に把握する。

広島市でイノシシによる被害やイノシシ自身の被害が起きているが、イノシシによる被害に焦点をあてていく。具体的には、安佐南区緑井町での被害を取り上げる。ここでのねらいは、イノシシの被害は住宅地で起きていること、頻繁に起きていること、被害の内容は、作物等の物的被害と夜怖といった精神的被害があることを具体的に把握することである。そこで、次のように進めた。

- ① イノシシ出没の新聞記事を提示し、知っていることや経験を引き出す。半数の児童は、出没の事を知っており、数名の児童は家族がイノシシと遭遇した経験を持っていた。
- ② イノシシ出没の新聞記事をもとに読みとり、広島市のどこで、どんなことが起きているか、地図と写真で具体的に確認する。
・ 中国新聞：野生の叫びシリーズ「20年ぶり毎夜の無法」 （イノシシによる被害）
「すみか追われ無残な最後」 （イノシシの交通事故）
・ 地図：市街地と山林の区別が明確な広島市地図
・ 写真：夜、畑を荒らす親子のイノシシ ・ 交通事故にあったイノシシ
- ③ 緑井町の被害に焦点化し、どんな地域か、位置は地図で、周囲の景観は写真で確認する。
・ 写真の内容：近接するおもちゃ屋やデパートなどの大型店 ・ 周りの大規模団地
畑や住宅が混在するようす ・ 近接する主要道路やJR
- ④ 緑井町ではどんな被害が起きているのか、被害にあった方の話と実際の様子をVTRや資料で提示し、捉える。
・ VTR 出没：どんなイノシシが、いつ、どこで、どのように出没するか。
被害：物的被害（作物を食べる、畑を掘り返す、ビニールハウスを破る）
：精神的被害（夜怖くて歩けない、突然飛び出てきて事故になる）

- ⑤ 児童が被害の様子を読みとったところで、わかりやすくするために、被害の様子をそれぞれ絵カードで提示し確認する。さらに、その分類を通して被害には物的被害と精神的被害があることをおさえていく。

(2) イノシシ被害をなくすための「仮の解決策」を各自がもつ。

児童が、イノシシによる被害の様子をつかんだところで、このことについて児童自身がどのような思いをもっているか発表したり、イノシシに出会ったことのある家族の体験談やその時の気持ちを紹介しあう場を設定した。そのなかで、児童がイノシシ被害は自分と同じような生活空間で起きていること、身近な人にも起きうることでありとらえて、何とかしなくてはという素朴な気持ちを持ち始めた段階で、次の発問をし、現時点での解決策（仮の意思決定）を引き出してみた。

このようなイノシシによる被害（板書の被害絵カードを示し）をなくしていくために、みなさんは、どうしたらよいと思いますか。今の自分ならどうするか考えを書いてみよう。

ここでは、不十分であっても、自分の解決策をもつことが大切である。そこで、子どもたちの解決策を引き出すために、考える時間を十分に確保し、考えを整理するための書く場を設定する。

(3) 「仮の解決策」を互いに吟味しあう。

子どもたちが現時点での解決策（仮の意思決定）をつくったところで、互いに吟味しあうことにした。現時点での仮の解決策は、被害の現状や背景を「自分なりに〇〇ではないか」と想定した上で考えたものであり、現段階では不十分なものである。また解決策そのものも「おそらくうまくいくだろう」と想定したものである。そこで、ここでは児童の想定していることが確かであるのかを問いかけていく。このような解決策の確かさを吟味していくことを通して、児童は意思決定をしていくための前提となる社会認識の必要性やその認識しておくべき内容に気づいていくと考えている。吟味にあたっては、次の手順で行った。

- [1]① イノシシの被害をなくす方法を互いに明らかにする。 「 」発問例 *は活動
*発表を内容ごとに分類し板書していく。
- ② 明らかになった方法について、どの方法が被害をなくすよい方法か、賛成・反対の意思表示をする。
「とてもよいと賛成する方法はどれですか。よくないと反対する方法はどれですか」
*方法に沿ってよい○、よくない△を挙手で確認し、板書に○△をつけていく。
- [2]① 吟味の対象として、賛成・反対の意思表示が集中する方法について、いくつか取り上げ、その理由を問いかけていく。
「被害をなくしていくよい方法だと賛成したのはなぜですか」
- ② 児童から出された理由について、解決策の前提とする社会認識や解決策そのものが確かであるか問いかける。
「山林が減ってきたので山をよくするというけれど、山林は本当に減っているの」
「その方法で本当に防ぐことができるの、技術的に大丈夫なの」
- ③ 前提の認識が確かであるかを問いかけ、認識の曖昧な点、不十分な点を明らかにし、解決方法を考えていくために認識しておかなければならない内容を気づかせていく。
「はっきりしないね。ということは、解決方法を深く考えていくためには、実際の様子を調べておかないといけないね」
- [3]① 吟味の対象として取り上げた方法以外について、深く認識しておく必要のある内容はないか問いかける。
「では、他の解決方法について、きちんと調べておかないといい方法かどうかがよくわからないと思うものがありますか」
- ② 児童の発表に応じて、具体的な解決方法を取り上げ、何を認識しておく必要があるか問いかけていく。「この〇〇の方法の場合、何を調べておきたいのですか」

児童が実際に考えた解決方法を整理すると以下のようになる。ここでは、良い方法として賛成意見が集中した「山林を大切に作る」という解決方法の吟味について、具体的に示してみたい。

〈クラスに出された解決方法〉

一時的対応策	捕獲	〈捕まえて、山へ帰す〉 22人 〈捕まえて、他へ移す〉 12人 〈餌付けして、飼う〉 5人	・仕掛け、落とし穴、檻などで捕まえて帰す。 ・動物園や保護センターなどへ移す。
	防御	〈発見し、準備する〉 4人 〈おいはらう工夫〉 19人	・鈴を。警報装置、見張る人、番犬をおく。 ・光と音が弱点なので、畑や地域に電灯を。 ・嫌いな辛子で、嫌いな大根模様の服を着る。
	駆除	〈入らない工夫〉 17人 〈やむを得ず殺す〉 6人	・周りに網（電気）塀、かかし・地域を囲む。 ・狩猟期間をつくる。動物を山へ放す
根本的解決策	自然環境の保全、	〈住みやすい山林にする〉 18人 〈開発しすぎない〉 11人 〈害のないように〉 2人	・木や草を植える・すみかや食物を豊かにする。 ・山林を大切に作る。・森林を切り開かない。 ・イノシシの牙を生えないようにする。
	イノシシを変える	〈増えないように〉 4人 その他	・1/3の割合で増えるようにする。 ・引っ越す。・家を森林から離す。

〈吟味の一例〉 T：教師 C賛：賛成する児童 C反：反対及び不確かな児童

T	・被害をなくす方法として、山に木を植えるのがよいと賛成したのは、なぜ。
C賛	・元々は、人が森林を切り開いたりして、イノシシが住めなくなって出てきたんだから山の木を大切に作る方法はよいと思う。
C反	・イノシシが住めないと言うけれど、住めないくらい山の木は少ないのかな。
C賛	・団地などが増えてきていて、山の木は減ってきていると思う。
T	・山林が減ってきていると言うけれど、本当にイノシシが住めないくらい減ってきているの。実際には、どのくらい減ってきているの。
C賛	・減ってきていると思うけど、実際にどのくらいといわれたらはっきりしない。
T	・ということは、実際にこのことを調べていないと解決方法を考えられないね。

(4) 意思決定のために何を調べていくか見通しを持つ。

上記のように、児童は現時点での解決策（仮の意思決定）を互いに吟味しあうなかで、自分の考え方の根拠が不十分であることに気づいてきた。また、新たな考え方にふれて、解決策を考えていくためには、いろいろな角度から考えて行かなくてはならないことにも気づき始めてきた。

そこで「イノシシの被害をなくしていくためには、どんなことをくわしく調べておかなければなりませんか」と問いかけてみた。子どもたちの調べておきたい内容を整理すると以下の7項目になる。ここで、現場の人々の思いについては、児童が、十分目を向けていなかったため、教師が現場にいる人の気持ちや解決方法への考えも聞いてみようと思言をおこなった。そして、これらの認識を深めた後に、改めて解決方法を決定（意思決定）することを確認していった。

(1)被害のくわしい現状は	(2)イノシシの生態は、	(3)近郊の山林の様子と変化は
(4)町や地域の変化は	(5)どんな防御方法の工夫が	(6)保護する場所は
(7)地域の思いは		

4 考察

単元導入部に「仮の意思決定の吟味」を位置づけたことが、児童の意思決定のための事実認識力を育成する上で、どのような効果をもたらしたかについて考察する。

考察にあたっては、プリテストとポストテストを行い、その変容をもとにする。内容は、学習したことのない「熊出没問題」を取り上げ、設問は「こんな熊問題の解決策を考えていくためには、

その前に何を調べておかなければならないか」である。ここでは、学習を通して、児童が意思決定のために必要な事実認識の視点や具体的項目を、どのくらい獲得しているかをみていく。

学習前と学習後の視点と具体的項目数の変容をみると、視点数については「64→98」、項目数については「72→150」と、ともに増加しており、ほとんどの児童が、視点を増やしたり、より細分化した具体的項目を持てるようになってきている。

このことから、「仮の意思決定の吟味」を位置づけたことは、意思決定を行っていくために必要な事実認識の視点を深めていく上で一定の効果があるといえる。その質的変化を視点や具体的項目数の変容をもとにすると次の4点となる。

- 学習後、「熊の生態」にほぼ全員が目を向け「食、住、性質は？」などのように具体的になっている。このことより、熊出没の原因や解決策（一時的防御、根本的解決）を考えていくためには、熊そのものの生態を把握しておくことが大前提であると気づき始めているといえる。
- 学習後、「出没の背景」により深く目が向けられるようになってきている。その向け方は「熊はなぜでてきたのか？」という漠然とした視点から、「山地の自然環境とそこでの熊の生活はどうか？」というように具体的になってきている。また具体的項目に「熊と自然の状況」だけでなく、「熊は人とどう関わっているか？」などの人の観点が加わり、熊出没の背景を自然環境、熊、人の三者の関係で把握しようとしている。
- 学習前には、持ち得ていなかった「現地の人々の思いや考えはどうか？」という視点を持ち始めている。現地の人とはどんな思いか、今どんな防ぎ方をしているかなど、自分が解決策を考える前に人々の状況や思いを十分に把握しておく必要性に気づき始めている。
- 学習後、個別の防御から、広域的な解決方法に目を向けつつある。

意思決定のための事実認識に関する変容

		事 前											事 後											視点・項目数の各個人の変化									
		出没の現状				出没の背景			熊の生態				解決方法				出沒の現状				出没の背景			熊の生態				解決方法				事 前	事 後
児 童	視点	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	項目数	視点数	項目数	視点数						
	具体的項目																山林の生活	山林の変様	出没地変化	食住の特徴	好みに性質	具体的防御	解決の考え方										
1		○																							1	1	4	3					
2		○																							3	2	3	2					
3		○																							2	2	3	2					
4																									2	1	4	4					
5		○					○	○																	3	2	4	2					
6							(なぜ)																		1	1	4	3					
7		○																							2	2	3	1					
8																																	
9																																	
10																									1	1	3	2					
11																									1	1	3	2					
12																									1	1	2	1					
13		○	○																						3	2	2	2					
14																									3	2	6	4					
15		○	○																						3	2	4	3					
16																									3	2	4	3					
17																									3	2	3	1					
18																									2	2	2	2					
19		○																							1	1	4	2					
20		○																							2	1	2	2					
21																									2	2	3	2					
22																									3	3	3	1					
23																									3	2	5	3					
24		○	○																						1	1	4	3					
25		○																							3	2	5	3					
26																									1	1	2	1					
27																									2	1	6	4					
28																									2	2	7	5					
29																									3	2	5	3					
30																									2	1	4	2					
31																									3	3	6	4					
32																									3	2	3	2					
33																									1	2	3	2					
34																									2	2	8	5					
35		○																							2	1	5	2					
36		○																							3	3	5	3					
37																									2	2	3	2					
38																									1	1	5	3					
39																									1	2	3	2					
40		○																							1	1	4	4					
	項目数	14	4	1		12	9		8	15		10					26	13	3	29	47	6	3	72	150								
	視点数	14		1		27			18			10					32			36				64	98								